

外交・内政状況

2013年8月

コロンビア日本大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 1～31日 政府とコロンビア革命軍（FARC）との和平交渉（於：ハバナ）
- 4日 国民解放軍（ELN）による人質1名（国軍兵士）の解放
- 9日 国連薬物犯罪事務所（UNODC）によるコカ栽培等に関する発表
- 16～31日 農民及び鉱山労働者によるスト
- 20～21日 FARCによるテロ攻撃（於：アラウカ県等）
- 20日 国会の開会（～12月16日）

【外交】

- 2日 オルギン外相のイベロアメリカ臨時外相会合出席（於：パナマ）
- 4～9日 オルギン外相のロシア・アゼルバイジャン訪問
- 12日 オルギン外相のタイ訪問
- 12日 ランセタ筆頭外務次官の MERCOSUR 首脳会合出席（於：ウルグアイ）
- 15～19日 ピレイ国連人権高等弁務官のコロンビア訪問
- 18日 フェルナンデス・アルゼンチン大統領のコロンビア訪問
- 22日 サントス大統領のベネズエラ訪問
- 30日 オルギン外相のジャマイカ訪問
- 31日 カナダ外相のコロンビア訪問

II 本文

【内政】

1 政府とコロンビア革命軍（FARC）との和平交渉（於：ハバナ）

1～7日、政府とコロンビア革命軍（FARC）はハバナにおいて和平交渉を行い、「紛争終結及び安定的持続的平和の構築のための一般合意」に基づき、第2の議題である「政治参加」、特に武装解除の時期及び政治参加の方法等につき議論した。その後、28日に交渉が再開し、8月8日まで継続する予定。

また1日、ティモチェンコ FARC 最高司令官とロドリゲス国民解放軍（ELN）最高司令官（通称：ガビノ）は、FARC が ELN の和平交渉参加を支援する旨共同発表した。一方、コロンビア政府は、ELN が交渉に参加する前提条件として、ELN が人質の解放等和平への意思を示すことを要求している。

2 国民解放軍（ELN）による人質1名（国軍兵士）の解放

4日、ELNは、5月21日にノルテ・デ・サントアンデル県で発生した戦闘において人質とした国軍兵士1名を解放した。16日には、カウカ県タンボにおいて、ELN構成員30名が国軍の呼びかけに応じ、投降した。

3 国連薬物犯罪事務所（UNODC）によるコカ栽培等に関する発表

9日、国連薬物犯罪事務所（UNODC）は、違法栽培監視統合システム（SIMCI）に基づき、コロンビアにおけるコカ栽培面積及びコカイン生産量が減少した旨を発表した。UNODCによれば、コカ栽培面積は、64,000ヘクタール（2011年）から、48,000ヘクタール（2012年）に減少、またコカイン生産量は640トン（2005年）から309トン（2012年）に減少した。現在、カタトゥンボ地方、メタ・グアビアレ間、オリノコ地方を中心にコカインが生産されている。

4 農民及び鉱山労働者によるスト

7月に引き続き、カタトゥンボ地方において、農民による抗議活動が行われた。その後、抗議活動はアンティオキア県等周辺地域にも広がり、鉱山労働者らも参加した。ガルソン副大統領が農民代表と数回にわたり会合し、31日、ストを中止して政府との話し合いを継続することに合意した。

5 FARCによるテロ攻撃（於：アラウカ県等）

20日、アラウカ県農村部で、石油パイプラインの警備に従事していた国軍兵士が約80名から構成されるFARC第10戦線に襲撃され、15名が死亡した。また同日、カケタ県エル・ドンセロ市においても戦闘があり、国軍兵士4名が死亡した。21日、FARCは、グアビアレ県エル・レトルノ市において、6月20日に米国人（元海兵隊員）1名を誘拐した旨を発表した。

6 国会の開会

20日、国会の開会式（2013年－14年会期）が行われた。サントス大統領は、非合法武装勢力の幹部を含む構成員の減少や、コカ栽培面積およびコカイン生産量の減少等に関及しつつ、治安対策の成果を強調し、今後、警察官の増員や違法鉱山採掘の取り締まり強化といった対策を講じる旨述べた。なお、上院議長としてクリスト議員（自由党）、下院議長としてペナゴス議員（国民統一党）が選出された。国会会期は12月16日まで。

【外交】

1 オルギン外相のイベロアメリカ臨時外相会合出席（於：パナマ）

2日、オルギン外相は、パナマで開催されたイベロアメリカ臨時外相会合に出席した。同会合においては、イベロアメリカ検討委員会報告書を元に参加国間の協力強化の方策について議論したほか、次期イベロアメリカ事務局長選挙（2014年1月末）の実施方法につき検討した。

2 オルギン外相のロシア・アゼルバイジャン訪問

4日、オルギン外相はラブロフ・ロシア外相と会談し、文化やスポーツ交流を通じた二国間関係の強化、及びグローバルな課題に関して意見交換した。オルギン外相は、ラブロフ外相に対し、コロンビアのアジア太平洋経済協力（APEC）参加への支持を働きかけた。5日、第5回二国間政策対話に出席し、経済・貿易、技術・軍事、科学・技術、燃料・エネルギー、法務・領事に関する広範な意見交換を行ったほか、企業家との会合に参加した。また6日には、サンクトペテルブルクを訪問し、フリステンコ・ユーラシア経済委員会委員長と会談した。

7日、オルギン外相は、アリエフ・アゼルバイジャン大統領を表敬訪問したほか、メメディアロフ外相と会談し、二国間関係の強化につき意見交換した。8日、オルギン外相は、アゼルバイジャン外交官学校において、コロンビア外務省が推進する公務員を対象としたスペイン語講座について発表した。

3 オルギン外相のタイ訪問

12日、オルギン外相は、アジア太平洋地域との関係強化の一環として、タイを訪問し、インラック・タイ首相を表敬訪問したほか、スラポン外相と会談し、在タイ・コロンビア大使館の再開につき合意した。

4 ランセタ筆頭外務次官の MERCOSUR 首脳会合出席（於：ウルグアイ）

12日、ランセタ筆頭外務次官は、ウルグアイで開催された第45回 MERCOSUR 首脳会合に出席した。コロンビアは MERCOSUR 準加盟国となっている。

5 ピレイ国連人権高等弁務官のコロンビア訪問

15～19日、ピレイ国連人権高等弁務官はコロンビア政府の招待によりコロンビアを訪問し、サントス大統領、ガルソン副大統領、オルギン外相とコロンビアの人権状況につき意見交換したほか、カウカ県サンタンデル・デ・キリチャオ市を訪問し、先住民族、アフロ・コロンビア、農民等の組織代表と意見交換した。サントス大統領は、コロンビアの人権状況は改善しているとして、国連人権高等弁務官事務所のマンデート延長を1年間に限定し、その後は次期政権が決定するべきであると述べた。

6 フェルナンデス・アルゼンチン大統領のコロンビア訪問

18日、フェルナンデス・アルゼンチン大統領は、ティメルマン外務大臣、ジョルジ産業大臣、パグリエリ国際通商長官等とともに、フコロンビアを訪問し、サントス大統領と会談した。両大統領は、5件の合意文書（紛争における女性問題に関する協力、スポーツ分野での協力、人身売買対策に関する協力、犯罪人引渡に関する二国間条約、及び両国首脳共同声明）に署名した。

7 サントス大統領のベネズエラ訪問

22日、サントス大統領は、ベネズエラ（プエルト・アヤクチヨ）において、マドゥーロ・ベネズエラ大統領と首脳会談を実施した。サントス大統領は、考え方には相違があるものの、二国間関係の再活性化を目指したいとして、麻薬対策、密輸、非合法勢力等を含む安全保障、エネルギー協力、貿易と統合について議論していきたいと述べた。また、マドゥーロ・ベネズエラ大統領は、コロンビアの和平実現を支援する旨述べた。

8 オルギン外相のジャマイカ訪問

30日、オルギン外相はジャマイカを訪問し、ニコルソン・ジャマイカ外相と会談した。両外相は二国間及び地域メカニズムを活用した関係の強化について議論し、政策対話を継続することで合意した。

9 カナダ外相のコロンビア訪問

31日、ベアード・カナダ外相はコロンビア訪問し、オルギン外相と会談し、太平洋同盟、通商関係の強化、西半球情勢・国際情勢、コロンビア国内情勢等について意見交換を行った。また、ベアード・カナダ外相は、国内武力紛争により被害を受けた人々のための施設「コロンビア記憶・平和・和解センター」を訪問した。

(了)